

## 帰化アサガオ対策で大豆の収量確保・品質改善へ

大河原町の農事組合法人かながせ（鈴木恒男代表理事）は、2006年に6人のメンバーで設立、現在まで大豆と大麦の生産を担ってきた。



大豆を覆い隠す帰化アサガオ

近年、大豆生産に大きな影響を及ぼす帰化アサガオに悩まされ、一昨年の反収は50kgを割り込んだ。

そこで、同法人では、大河原農業改良普及センターの指導を受け、大豆生産管理体系を根本から見直すこととした。

まず、初期対策として土壌調査を行い元肥で石灰窒素のほかリン酸・カリ成分を多く含む即効性肥料を導入。また、中耕・培土作業の改良、ブームスプレイヤの吊り下げノズルを利用したピンポイント除草など、除草体系の見直しも実践した。これら対策の結果、反収は200kg以上となり、品質も大粒が全体の9割を超えた。

鈴木代表理事は「やはり基本が大事。丁寧に、適期作業・適期雑草防除で収量確保を図りたい」と話す。

同法人は、今後も大豆・大麦の大規模輪作に取り組み、仙南地域の農業の中核を担う決意だ。